



# 遠藤れい子ひまわりレポート



○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443  
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475

## 県議会の論戦から考える 原発の再稼働を 止めるために！

3月議会で知事は、「原発事故の3つの検証は期限を区切ることなく議論を尽くしてと考えている」と答弁しました。

※しかし、21年2月26日の地元紙に「エネ庁幹部から来県80回」と報じられるなど再稼働の地ならしが。

(共産党の国会質問で明らかに)

※ロシアはウクライナの原発に武力攻撃を行い「安全な原発」はないということが明確になりました。

※原発再稼働を止めさせて、安全・安心の新潟県をつくる知事と県政を。



22.4.4 中之島支所前で遠藤県議(左)

## 中之島みずほ団地の調整池 排水ポンプ増強し逆流防止弁も設置

昨年12月、遠藤れい子県議はみずほ団地のTさんから「豪雨の時に調整池の排水路があふれ、床下浸水している。何とかならないか」との相談を受けました。諸橋虎雄市議とともに現地を視察し、中之島支所に解決策を要望するとともに、長岡市議

会3月定例会では諸橋虎雄市議が一般質問で抜本的な防止対策を要望しました。市は、「豪雨時には排水先の中之島川の水位が急上昇し、調整池からの排水が困難となることから、仮設ポンプによる排水作業を行っているところですが、さらにこのたびの補正予算を活用して排水ポンプを増強します。加えて、中之島川から調整池への逆流を防止す

るため逆流防止弁も設置します。今後も引き続き調整池の適正な管理に努めるとともに、有効的な浸水対策を検討の上、実施してまいります」と答弁しました。「地域の困った」が一つ解決しました。



12.24中之島支所に要請する遠藤県議(左)と諸橋市議(右)

## 県議会の論戦から考える 県立病院を守り充実するために！

### 3月県議会 遠藤県議質問

本県の医師数、ICU数などの医療資源は全国最低クラスであるにもかかわらず、一層の病床削減を行う「地域医療構想」を進めることは大きな問題である。高齢化が進み、医療需要も救急搬送も増加傾向にある現状では、地域医療構想の推進は中止すべき。

### 【知事答弁】

病床削減を目的としたものではなく、人口構造の変化に伴う医療ニーズの変化や医師の

働き方改革などに対応するため、地域の中核病院の機能を強化するとともに、周辺病院も含めその役割に応じて新たな感染症にもしっかり対応できる持続可能で質の高い医療提供体制の構築を進めるものであり、引き続き進めていく。

※しかし、言葉とは裏腹に現実的には県立病院の再編計画は進められ、病床削減が着々と進められて地域の一般救急の受入れが県



21.7.28にも街頭で訴える遠藤県議

央基幹病院に集中し、他の病院で診ないというところは結局はその地域の住民の願いに背くことになります。

また、津川・妙高・松代病院等へき地4病院は県立から市町村や民間に移管される計画で、これでは医師や看護師等医療従事者の確保はさらに厳しく、住民も困ります。

医師を増やし県立病院をまもる知事と県政を。